

○担 任 者 小 川 一 仁 連絡先 : kz-ogawa@kansai-u.ac.jp

○テ ー マ 「鳴かぬなら鳴かせてみよう不如帰」から始めるインセンティブ・人間行動・制度設計

○指導概要 豊太閤の性格を表す言葉に「鳴かぬなら鳴かせてみよう不如帰」があります。例えば、刀狩りの名目は大仏鑄造でした。大仏を作ることで一般民衆に来世の幸福を「保証」し、一般民衆からある程度自発的に武器を回収することに成功しました。

このように、いろいろな仕組みを用いて人々や企業のやる気を引き立たせることを、「インセンティブを与える」と言います。インセンティブを与えることで行動パターンが変わります。例えば、成果主義的賃金体系なので給与体系はこの例です。

そして、どういったインセンティブを与えるかは、どのような制度を作るか、によります。制度を作ることを、近年では「制度設計」と言います。法律も制度の一つですし、日本の葬式に派手な服装で参列することが忌避されるといった、自然発生的に生まれてきた「慣習」も立派な制度です。

平成 26 年度の本ゼミでは、世の中の問題を取り上げ、より望ましい行動を促す制度を考えることを目指します。しかし、この目標を達成するには社会科学の基本的な分析ツールを習得する必要があります。理論なき実践は世に弊害をもたらすだけだからです。

本ゼミでは、最初に人間行動の複雑性について、テキストを用いながら、輪読形式で勉強します。その後、アンケート調査や実験設計・実験実施の手法を学び、グループワークで、さまざまな社会制度の下での人間行動に関する研究報告をしていただきます(合同ゼミ合宿、合同ゼミ発表会にて)。ここで体験する一連の出来事は卒業論文執筆に大きく役立つでしょうし、熱心に取り組めば就職活動の糧になるでしょう。

学習の前提として、ゲーム理論に代表される社会科学における論理的思考が必要です。そこで毎年 3 月にプレゼミを実施し、基本的なゲーム理論を学習します。また、年度開始後にサブゼミを設置し、主に統計データの取り扱いを学習する予定です(ゼミ合宿・合同ゼミ向け勉強会に切り替わる場合もあり)。プレゼミ、サブゼミへの参加は必須です。

視野を広げてもらうために、夏休みに他大学との合同ゼミ合宿を行う予定です(平成 23 年度は韓国・仁川大学、平成 24 年度は広島市立大学、平成 25 年度は広島市立大学・芝浦工業大学)。また、社会学部内ゼミとの合同研究会を行う場合もあります。これらの合宿・研究会では上記グループワークの成果を報告していただきます。

○応募者への課題

QR コードの先にあるリーディングリストから 1 冊を選び、そのうち最も重要である 2 章を要約して下さい。

○教 科 書 ディーン・カーラン、ジェイコブ・アペル、『善意で貧困はなくせるのか?—— 貧乏人の行動経済学』, みすず書房, 2013, 3,000 円+税 (年間 2, 3 冊の本を読みます)

○参考文献 授業中に指示します。

○応募者への要望 社会常識の遵守(時間を守る、欠席の連絡、報告を逃げない、ゼミで行われる各種行事への参加...)をお願いします。ゼミコンパは各期 2 回程度あります(その他気まぐれに指導教員が飲み连接到れて行く場合もあり)。合宿(参加必須)もあります。質問はメールで、件名は「ゼミに関する質問」として下さい。3 年生ゼミは毎週火曜日 3 限 A207 で実施しています。10/1,8,15 をゼミ見学日とします。見学に際しては事前連絡不要です。サブゼミは隔週火曜日 5 限 C503 他で実施しています。

HP への QR コード



リーディングリストへの QR コード

